

プランに対する意見等への対応について

プラン策定 医療機関名	意見の概要	意見等に対する医療機関の考え	左記に伴うプランの記載内容の取扱い
春日井市民病院	<p>【意見の内容】 一般病床利用率の目標(88%)を達成するために、「一般病床数を徐々に削減」していくよう、具体的に計画することが望ましいと思われる。</p> <p>【意見等の理由】 春日井市民病院の病床利用率は、過去90%前後だったものが、至近4年間(H24~27)では84%程度と安定的に推移している中、H32の目標利用率88%に対して、病床数の削減計画はH29から▲4床のみとなっており、目標を達成しうるイメージが描けない。</p> <p>また、地域の医療機関との連携を一層強化していく必要性等から、病床数を徐々に削減する計画を検討されてはどうかと考える。</p>	<p>当診療圏内の救急医療に積極的に取り組んでいる当院として、病床削減は経営効率上も有益に見えるが、1~2月の高齢者の市中肺炎により、満床状況が診療圏内で毎年発生している状況を鑑みれば、安易な病床削減は患者収容に大きな障害となる。</p> <p>更に小児科、産科を有する当院では、男女の性別で病床管理をする為、利用率が90%を超えると病床運営に多大な支障が予想される。</p> <p>よって、当面病床削減の考えはない。</p>	プランを修正しない
春日井市民病院	<p>3病院が高度急性期・急性期に特化して担われる事は結構なことであると思います。回復期・慢性期・療養期・リハビリ入院等を担える医療機関の整備がしっかりなされなければ患者となる方々安心して転院することが出来ない。</p> <p>川上である3病院が役割分担をしっかりしても、それに続く病院等が大事で整備も急務、在宅で(住み慣れた地域)暮らすためにはスムーズに流れていけるような整備をすることとなる。</p> <p>その辺り3病院の先生方はどのような絵を描いていらっしゃるのでしょうか？</p>	今後、医療連携だけでなく、病々連携も推進し、地域の回復期、慢性期を管理する病院と連携を深めていきたい。	プランを修正しない
春日井市民病院	<p>【意見の内容】 これまでよりも広範囲の病院との連携を図っていただきたい。貴院に置ける在院日数をより短縮して、post acute を他院に移管するというflowを徹底して構築していただきたい。</p> <p>【意見等の理由】 貴院の役割から、稼働率ではなく回転率で語るようにしていただき、当院が貴院との密な連携を構築していくべきであるため。</p>	その様に以前から努力しているし、今後、入退院支援にさらに傾注し、早めの転院を考慮していきたい。	プランを修正しない

プラン策定 医療機関名	意見の概要	意見等に対する医療機関の考え	左記に伴うプランの記載内容の取扱い
小牧市民病院	<p>3病院が高度急性期・急性期に特化して担われる事は結構なことであると思います。回復期・慢性期・療養期・リハビリ入院等を担える医療機関の整備がしっかりなされなければ患者となる方々安心して転院することが出来ない。</p> <p>川上である3病院が役割分担をしっかりしても、それに続く病院等が大事で整備も急務、在宅で（住み慣れた地域）暮らすためにはスムーズに流れていけるような整備をすることとなる。</p> <p>その辺り3病院の先生方はどのような絵を描いていらっしゃるのでしょうか？</p>	<p>ご指摘のように、高度急性期、急性期に続く回復期・慢性期の病床が整備されていなければ、地域医療構想は機能しません。急性期病床からの Post-acute の患者、および在宅からの Sub-acute の患者の受け入れができる病床の整備は必須であると考えます。現在は高度急性期・急性期病床が過剰で、回復期病床が不足しています。今後は実際に稼働している病床の現状を明らかにしたうえで、各病院、診療所が、自院の提供している入院医療を客観的なデータをもとに確認、評価し、病床機能転換の必要性を検討していくことになると思います。基本的には自律的に、あるいは医療圏内での調整により、病床機能の変更がなされ、主に民間病院で必要な回復期病床を確保されることが理想です。さまざまな調整を尽くしても、回復期病床の確保ができず、地域医療に支障をきたすようであれば、小牧市民病院が在宅からの Sub-acute 患者を一時的に受け入れることもあるかもしれませんが、それはあくまでも補完的な対応にとどめるべきと考えています。</p>	プランを修正しない。
小牧市民病院	<p>【意見の内容】 貴院が想定しているように在院日数をさらに減らし、回転率をあげていただくのに、当院は後方支援病院としての役割を確立していきたい、と思います。「小牧市民で1週間経過した後は・・・」の選択肢としていただきたい。</p> <p>【意見等の理由】 当院のようなクラスの病院の生き残る術だと思っております。</p>	<p>小牧市民病院が、急性期病院として地域に貢献していくためには、後方連携の確立は急務であると認識しています。しかも、近年は後方支援病院の医療提供体制の整備と綿密な情報共有により、今まで以上に早期から医療連携をすることで、お互いのメリットも大きくなることがわかってきました。当院でも、一部診療科からより早期の情報提供と連携に向けた調整を検討し始めているところです。今後とも連絡を密にしながら、連携の一層の充実、発展を図っていきたくと考えていますので、ぜひともご協力いただけますようよろしくお願いします。</p>	プランを修正しない。

プラン策定 医療機関名	意見の概要	意見等に対する医療機関の考え	左記に伴うプランの記載内容の取扱い
江南厚生病院	<p>3病院が高度急性期・急性期に特化して担われる事は結構なことであると思います。回復期・慢性期・療養期・リハビリ入院等を担える医療機関の整備がしっかりなされなければ患者となる方々安心して転院することが出来ない。</p> <p>川上である3病院が役割分担をしっかりしても、それに続く病院等が大事で整備も急務、在宅で（住み慣れた地域）暮らすためにはスムーズに流れていけるような整備をすることとなる。</p> <p>その辺り3病院の先生方はどのような絵を描いていらっしゃるのでしょうか？</p>	<p>当院は基本姿勢として、高度急性期と急性期を中心とした医療を継続します。2025年に向け後期高齢者が増加することから、急性期病床を減らす考えはありません。症状が安定した後（回復期、慢性期）は、今まで通り地域の医療機関や福祉施設との連携により、転院や在宅での治療をお願いしたいと思います。</p> <p>地域連携を強化・推進する目的で、地域医療ネットワークシステム（こうせいネット）の利用拡大、病病連携会議（病床を有する医療機関との会議）、地域連携交流会（地域医療機関との交流会）、地域連携会議（医療福祉関係機関との会議）などにより効率的な医療提供体制を構築していきます。</p> <p>そして、地域の特性に応じた地域包括ケアシステムを構築する中で、地域医療構想では多くの医療圏において回復期病床が不足となっていますが、患者の状態に応じて、病院だけでなく介護施設や在宅での治療が行える環境を整えていく必要があると思います。</p>	プランを修正しない。
江南厚生病院	<p>【意見の内容】 貴院は療養病棟を保有し続けるのではなく、高度急性期病院に特化した医療機関になっていただきたい。稼働率より回転率で activity を語っていただきたい。病床を減らしてでも在院日数を一桁にさせていただく必要がある。救急車に関しても、市民の意向に過剰に動かされず、軽微なものは搬送されないように消防に働きかけていく必要がある。病床稼働率は春日井市民渡邊院長が御発言なされたように、84%程度が高度急性期病院として妥当な病床稼働率であろう。もっと後方支援病院を活用していただきたい。超急性期を過ぎたら、他院へという flow を構築していただきたい。</p> <p>【意見等の理由】 これが世の中の流れ、厚労省の方針に沿ったものであるから。</p>	<p>当院の役割は、高度急性期と急性期を中心としつつ、地域の中核病院として在宅との連携も重要となってきています。このため、開院以来、療養病棟はあくまで一般病棟からの受け皿として設置していましたが、昨年9月より地域包括ケア病棟に転換し、後方支援病院への転院や在宅支援の準備、レスパイト入院の受け入れ先として、急性期から切り離して運用しており、今後も必要と思っています。患者や家族への機能分化の啓発と患者家族への十分な説明、意思決定プロセスもかなり求められており、連携していく上での院内での質の担保も図っていくつもりです。</p> <p>2025年に向け、高齢化の進展に伴い医療需要が増加することから、特に入院患者は3割ほど増え、現状の利用率、平均在院日数では病床が不足すると認識しています。現在、平均在院日数短縮のため、クリニカルパスの見直しを行っていますが、今後は更なる病病連携、病診連携の推進が必要と考えています。</p> <p>救急に関しては、救急車を断らない体制を基本とし、現状では搬送患者の4割近くが入院となっています。救急要請時に病院搬送前の情報で、患者さんの詳細な病態把握は不可能（困難？）と思います。当院は、今後も患者救命の観点から断らない医療を継続し、病院到着後に速やかにトリアージを行い、適切な治療を行う体制を維持していきたいと思っています。また、救急から派生する患者を医学的にアセスメントすると、社会的課題を抱える患者も多数みえるため、今後は連携施設側に当院から求めるものも明確にしつつ、医療面のことだけで連携できる患者とそうでない患者の両面を後方支援していただけるよう連携を促進していきたいと思っています。</p>	プランを修正しない。